

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCB_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) プレシス南林間	階数	地上14F
建設地	大和市南林間一丁目3375-9番 他	構造	RC造
用途地域	商業・第一種住居地域, 防火・準防火	平均居住人員	195 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年9月 0.0	評価の実施日	2012年2月20日
敷地面積	1,521 m ²	作成者	(株)オンスデコ
建築面積	643 m ²	確認日	2012年3月20日
延床面積	5,324 m ²	確認者	安井 克昌



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: 建設, 経路更新, 解体, 運用, オンサイト, オフサイト

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 当敷地は小田原急行江ノ島線南林間駅南側の住宅街の中に位置し、近隣には最近多くのマンションが建設されている。集合住宅の設計に際し、計画上の配慮としては近隣を含めた環境空間を壊さずに、いかに環境空間にマッチするかに配慮した。(外観・建築物の規模等) 又、外構の計画においても、出来るだけ空地を増やし、その緑化の計画で空地率・緑化率の増大に配慮した。		その他 特にありません。
Q1 室内環境 音環境に関しては、重・軽量衝撃音の低減を重視した。温熱環境では、品確法による等級3のレベルで断熱材を施工する。空気環境に関しては、仕上材料はFに基準の材料を使用します。又、24時間換気を採用する。	Q2 サービス性能 機能性に関しては、得に配慮はしていません。耐用・信頼性に関しては、建築物構造部分の耐用年数を長くするため品確法(劣化)による等級3の材料で施工します。住宅設備等に関しては、品確法(維持管理)による等級2のレベルで施工する。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の環境に関しては、敷地の空地率を出来るだけ増加させ、その部分への植栽を計画しています。又、空地率の増加による風等の影響の低減を考慮しています。
LR1 エネルギー 省エネルギーに関しては、集合住宅であるので共用部分の照明機器・照明器具を省エネルギー使用の製品を使用しています。	LR2 資源・マテリアル 水資源・再生性資源の活用に関しては、特に環境への配慮はしていません。汚染物質に関しては、空調機器はフロン等の汚染物質は使用しません。	LR3 敷地外環境 環境の温暖化・大気の汚染に関しては、特に環境への配慮はしていません。周辺の環境に関しては、ベランダ手摺を腰壁とし近隣へのグレアの影響を低減しています。又、外壁の表示等は発光の表示を行いません。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい